



平成19年9月14日

各 位

会社名 サンケン電気株式会社
代表者名 代表取締役社長 飯島 貞利
コード番号 6707 (東証 市場第一部)
問合せ先 執行役員IR室長 太田 明
TEL (048)487-6121

平成20年3月期 業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想につきまして、平成19年5月8日付の「平成19年3月期 決算短信」に記載の平成20年3月期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成20年3月期 連結業績予想値の修正

(1) 中間期(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月8日発表)	百万円 105,300	百万円 8,200	百万円 6,900	百万円 3,800
今回修正予想(B)	94,400	3,300	1,200	300
増減額(B-A)	△10,900	△4,900	△5,700	△3,500
増減率(%)	△10.4	△59.8	△82.6	△92.1
<ご参考>前期実績 (平成18年9月中間期)	100,088	7,783	6,667	3,682

(2) 通期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月8日発表)	百万円 223,000	百万円 19,000	百万円 16,500	百万円 9,000
今回修正予想(B)	192,500	10,000	6,500	3,500
増減額(B-A)	△30,500	△9,000	△10,000	△5,500
増減率(%)	△13.7	△47.4	△60.6	△61.1
<ご参考>前期実績 (平成19年3月期)	203,815	15,014	12,745	7,499

2. 個別業績予想値の修正

(1) 中間期（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月8日発表)	百万円 82,200	百万円 5,600	百万円 4,800	百万円 2,900
今回修正予想(B)	70,500	500	△900	△600
増減額(B-A)	△11,700	△5,100	△5,700	△3,500
増減率(%)	△14.2	△91.1	△118.8	△120.7
<ご参考>前期実績 (平成18年9月中間期)	76,563	5,874	5,529	3,386

(2) 通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月8日発表)	百万円 176,700	百万円 13,700	百万円 12,400	百万円 7,600
今回修正予想(B)	151,100	1,800	100	0
増減額(B-A)	△25,600	△11,900	△12,300	△7,600
増減率(%)	△14.5	△86.9	△99.2	△100.0
<ご参考>前期実績 (平成19年3月期)	155,565	10,104	9,574	6,192

3. 修正の理由

中間期の連結業績予想を上記のとおり修正いたしました。その主な要因は、CCFL事業における売上の伸び悩みによるものです。第1四半期決算以降、CCFL事業の受注は増加していますが、新製品の市場投入時期の遅れなどが影響し、想定していたレベルまでは達していません。また、液晶テレビ需要が、当社のターゲットである40インチ超ではなく、中低インチを中心に推移したこと、ならびに販売価格が予想を上回り下落したことにより、現時点では急速な売上増加を期待できない状況にあります。

損益面につきましては、CCFL事業の売上減少により、昨年度に実施いたしました設備投資に伴う固定費増加を吸収しきれず、大幅な利益減少となる見通しです。このほか、PM事業につきましては、空輸出荷等のイレギュラーコスト発生が大幅に減少したものの、プラズマテレビ市場の伸び悩みにより完全には回復せず、売上利益ともに予想を下回る見通しです。

また、通期連結業績予想および個別業績予想につきましても、上記と同様の理由により修正しております。なお、中間配当につきましては、安定かつ着実な配当維持の観点から、当初の予定通り1株当たり7円を予定しております。

※ 上記業績予想の数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上